

## 13-11 民芸調家具開発に関する研究試作

末吉光雄 菊池元

### 1. 目的

高品質家具の開発で産地品との競争性を高め業界の市場開拓に寄与することを目的とする。

### 2. 概要

本県特産の屋久杉家具品も資材供給面から代替品の開発が急がれる状況にあるが、これを樟材のソリッドで製品開化を進め近々の屋久杉供給不可現象時にスムーズに転換出来る素地を長期指導の一環として作り上げておこうとするものである。

これにより業界の体質改善強化も併せて行い先進民芸家具製品との競争力をとれるよう、5ヶ年計画で具体化する事業である。

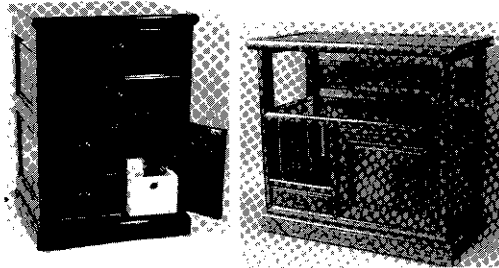
#### — 5年計画概要 —

- 56年度（第一年次）開発対象…手許小箱類
- 57 〃（第二 〃） 〃 …中型単品
- 58 〃（第三 〃） 〃 …収納セット用品
- 59 〃（第四 〃） 〃 …脚物 〃
- 60 〃（第五 〃） 〃 …集大成品より市場性のあるものを再試作と流通調査を行った上、技術転換を図る。

### 3. 経過

以上の計画に基づき現品試作を通して指導効果を高める施策である。初年度はもっともポピュラーで企業にとって取り組み易いタイプの標記品の試作により入口を示唆したものである。

#### • 試作品例2種



### 4. 成果

業界指導事業の重要施策であるため計画は万全を期したものであり、且つ将来性市場性を伴うものでな

ければならない。

このため前年試作品を次年度試作のステップとして総合評価も巾広く求める必要があるが、これに関しては民芸調家具開発研究協議会を結成し各界（企業代表、組合代表、学識経験者、関係機関）の方々にメンバーとなってもらい標記会を開催している。協議内容は一連のプロセスとして（市場性情報収集→デザイン作業→試作→市場追跡調査→流通段階）等総合的に検討出来たがこれは初年度最大の成果であったと考えている。

今後はこれらを参考に2年次からの本格的試作に移行するがプロジェクト班等の結成で一層の成果を出せるよう努力したいと考えている。